

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 国府の里
日付	平成18年12月12日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	在宅介護経験12年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 「おはようございます」響くほど元気な声が聞こえた。小さな訪問者、母体の保育園の園児が2つのユニットに数名ずつ保育さんと一緒に訪問した。1ヶ月に一度訪問するそうだが、園児も利用者も色々な機会に接触しているため、お互いに慣れた関係になっている。今日は、先日両者でした芋掘りの思い出を貼り絵で再現してみようとの試みで、色紙をちぎってその様子を絵にした。利用者は皆楽しそうな笑顔いっぱい、何とも言い難い愛らしい表情になって、園児を見つめ一緒に絵を仕上げた。その作品が壁に貼られ、リビングルームは明るくなった。「ありがとうございました」と挨拶して帰る園児を利用者は玄関まで見送った。 リビングルームの外に屋根付の広いウッドデッキがある。2つのユニットの洗濯干場にもなっているが、利用者の憩いの場でもある。昼前に職員と2人位の利用者が、そこで日向ぼっこをしていると、二人三人と集まってきて、とうとう両方のユニットから10人以上の利用者が集まってきた。職員がリビングルームから椅子を運ぶのに間に合わない位。ここで皆でアカペラで歌の合唱になった。これに歌詞カードを慌てて持ってくるという有様で、職員が予め決めて利用者にはさせるのではなく、利用者が自然に一つの事に集まって何かが始まるという自発的自己決定をしていく場面が見られた。 一人の利用者と職員で風船遊びをしていたら、そこに一人二人と自然に加わり、また風船遊びの集団が出来た。男性も女性も一生懸命風船を追っていた。職員が強制的に何かをするのではなく、利用者が仲良く、お互い思い合って楽しく暮らしている姿を見せてもらった。 また、利用者が遠慮なく、自分の思いや意見を述べている自由な空気が流れていて微笑ましい。利用者一人ひとりが、自由にのんびりと暮らしているグループホームである。 特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 利用者の高齢化、症状の重度化に伴い、精神状態や身体機能も残念ながら衰退していく。現在も重度化した利用者のケアをどうしていくか考えているが、個々の人に対して具体的なケアを重点的に計画していく必要があると思う。 今の記録に加えて利用者一人ひとりの気持ちや希望、気付いたこと等を記録して、極め細かいケアを計画して取り組んでもらいたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 利用者同士が仲良く暮らし、皆思いやりのある気持ちで生活している姿は、グループホームに漂う雰囲気や理解できる。職員は利用者の過ごしてきた環境を維持して、自分らしい生活をしていけるように、それぞれの人の能力を大切に、支援している。そして、特に規制するでなく、職員の都合を優先するでなく、利用者の自立の精神を大切に、利用者一人ひとりの時間を大切に生活のベースをつくらせている。 管理者と職員が協力して、利用者と一緒に家族との協力体制が出来てきた。「どこが良いか」と問われると、「ここが良い」と答えようがないが、「何となく良い感じがする。皆幸せそうな顔をしているから良いのでしょう。こんな雰囲気のグループホームが理想の姿だと思うし、これが理念を実現しているのだと思う。」		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か リビングルームや居室には、芋掘りや色々な行事の写真が貼ってあり、話題のきっかけとなっている。また、コスモス、オミナエシの野の花が季節を感じさせてくれる。各居室の表札が面白い。干支や職業に因んだ絵、好きな植物など利用者の特徴を掴んだ表札を貼っている。利用者は嬉しそうにその成り立ちを説明してくれた。自由な発想がある。 利用者がいつでも居室で飲めるように、ペットボトル、急須、温かい飲物等にお茶や水等、好みの飲物を入れて置いてある。食事やティータイム以外でも自由に水分が摂取出来るようにしている。片方のユニットだけであるが、自立性のある利用者に限定してのことであるが、良い方法だ。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 「このご飯は美味しいよ。ありがたい。毎日安心して暮らせる」女性利用者が話してくれる。一汁三菜を基本的に食事を作っている。豊富な食卓である。調理が出来上がっていくにつれて、女性利用者が盛り付けに参加する。献立は、利用者や相談して予め決めて置くが、最終的には買物してきた材料や在庫の食材で食卓にのる料理が決まる。献立は2つのユニットでは独自に決めている。 他の施設で寝たきりになり、よだれを垂らしていた利用者が、このグループホームに入所して3~4ヶ月で本来の姿を取り戻して、見るみる内に良くなった。家族への気遣いや思いやりも出来、感謝の言葉を投げかけられるようになり、本人も家族も大喜びで、職員も嬉しく元気付けられた。このグループホームのケアの努力を物語っている。 何をどうしたいというのではないが、管理者は「制限、規則はなく、自由に動いてもらっている」と見守りながら、今までの環境を維持していけるよう支援している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 家族がよく訪問してくれ、利用者がより良い生活をするための様々な相談に応じてくれたり、家族と一緒にグループホームの運営について考え、協力してくれるようになった。家族はグループホームのパートナーとしての役割を担ってくれるようになった。「包丁を研いでくれる」「季節の花を持って来て、リビングルームを飾ってくれる」「雑巾を持って来てくれる」「除雪に来てくれる」等、こまごま事に気を使ってくれる家族が増えて、毎日来てくれる人もいるし、色々な行事の実行にも加わってくれる。 今後は、運営推進会議も開催しているので、これを契機に地域との関わりを増やしていってもらい、この地域の認知症の情報発信のリーダー的存在になって欲しい。		